

# こんにちは 山田耕平 です

2012.2.2 No.58

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺 2-2-1 1  
TEL 090-9973-0941  
ホームページ  
リニューアル中



## 外環の2・話し合いの会

# 都の食い違う姿勢が明らかに…

## 住民の怒りの声が噴出

二月一日、外環の2地上部街路（外環道本線の地上部分）に関する話し合いの会（第三回）が開催され、外環道路計画周辺住民の方々と傍聴に参加しました。

この間の話し合いの会では、東京都の「外環の2・地上部街路」の必要性のみを強調する議事進行や不誠実な対応に、住民から怒りの声が寄せられていました。

第三回も都知事の発言と担当部局の見解が食い違うなど、都の不鮮明な姿勢が明らかになり、参加した住民から、怒りの声が上がっています。

### 知事「道路計画として残っているの？」 担当課長「知事は承知している」

昨年末に行なわれた石原都知事の記者会見では、知事が地上部街路の推進計画を「知らない」旨の発言があり、都のトップと計画を推進する担当部局の見解が異なっていることが問題となっていました。

話し合いの会で、構成員から質問が寄せられると、担当課長は「知事は承知している」「直接、知事へ確認したかは、都内部のことなので回答を差し控えたい」と不明瞭な発言を繰り返しました。



東京民法にも詳細

### 石原都知事記者会見（外環部分のみ抜粋） 2011.12月22日

【記者】「外環について。（中略）外環本線の真上に都道、幅員40mの都道をつくるという話なのですが、そうすると、結局、地上の用地買収が必要になるということであれば、外環本線も多額な事業費をかけて、大深度地下につくらずともいいのではないかなというように矛盾を感じるのですが、そこはいかがでしょうか？」

【知事】「その問題、私、あまりつまびらかにしていないので、もう一回、都市整備局に聞きますが、（中略）地下に、結局、通さざるを得ないと私は思ったんだけど、更にその上に、新しい都道をつくらうと言うの？」

【記者】「もとの都市計画決定、高架方式で最初に都市計画決定した時に、高架の側道としてつくる都道がまだ残ったままになっているんです。それを…」

【知事】「道路計画として、今、残っているの？」

【記者】「ええ。それを今、各沿線自治体ごとに都の方で話し合いの会というのをやっているのですが、」

【知事】「そうですね。詳しい報告は聞いていませんが、問題があるなら、もう一回現場行って、確かめてきますけれども。」

## 大型開発優先の政治 今こそ切り替えるとき

外環の2については、杉並区内だけでも立ち退き戸数は370棟を超え、計画周辺の住民から多くの反対の声が上がっています。住民の声をしっかりと反映させ、地上部街路計画は、ただちに中止すべきです。

また、莫大な予算を注ぎ込み、不要な大型開発を乱発する「古い政治」を切り替え、税金の無駄遣いを正していく政治が、今こそ必要です。

いっしょに考えましょう②

# 政党助成金を温存し「身を切る」？

**無くせば議員457人分の経費に相当  
無駄の削減、まずは政党助成金から**

民主党政権は「消費税増税」を口実に、衆議院比例定数を80削減する法案を、今国会に提出するとしています。比例定数を半減すれば、小選挙区制の害悪がさらに広がります。「当選した候補者以外への投票が無駄になる」「大量の「死に票」が増加し、多様な民意は切り捨てられてしまいます。

一方、総額320億円の政党助成金は温存しようとしていません。議員一人当たりの諸経費は公設秘書三人の給料を合わせても年間7000万円、比例定数を80減らしたとしても年間56億円程度の節減です。政党助成金を無くせば、国会議員457人分を削減したことになります。

**政党助成金 日本共産党は受け取らず**

政党助成金には様々な問題があり、無駄を削減するのであれば、政党助成金を廃止することが重要です。

日本共産党は、政党活動を堕落させる政党助成金も企業・団体献金も受け取らず、党員が納める党費、機関紙誌読者からの購読料、個人からの寄付という、党員と国民から寄せられる浄財のみで活動資金をまかっています。財政面でも大変な苦勞があります。常に「国民とともに」の立場をつらぬくことが私たちの原点です。

■2010年に各党が受け取った政党助成金額と依存度

	受け取った政党助成金額	政党助成金の依存度
民主党	171億516万円	82.7%
自民党	102億6381万円	67.4%
公明党	23億4126万円	16.3%
社民党	8億2199万円	51.9%
みんなの党	6億7578万円	58.9%
国民新党	3億9650万円	40.0%
新党日本	1億3565万円	92.4%
新党改革	1億1998万円	29.7%
たちあがれ日本	8183万円	11.1%

日本共産党は受け取らず

## 今週の一こま

みなぎるパワー

この食欲が要因か…！？

最近、子どもの力が増し、何でも持ち上げようとします。親としては、ハラハラしますが、逞しく育っているようで、喜ばしいことです。末はプロレスラーか？

みなぎるパワーには、凄まじい食欲が影響していそうです。最近、ご飯を自分で食べるようになり、スプーンも大人と同じサイズに変更。とにかく大食らいです(笑)



重いテーブルも軽々です(左)

## 政党助成金の問題点

- ① 税金を負担する国民にとっては、支持していない政党へも資金を提供することになる。
  - ※ 国民にとって、支持してもいない政党への強制献金であり、「思想及び良心の自由」をふみにじる憲法違反の制度です。
- ② 未成年者や日本在住外国人は、参政権がないにも関わらず政党の資金を負担することになる
  - ※ 赤ちゃんからお年寄りまで全国民1人あたり250円を取り立て、強制的に政党に献金させているのと同じ意味を持ちます。
- ③ 助成金の受領を目的に、支給日直前の政党の離合集散が起きる。
  - ※ 民主党離党議員が年初に結成した「新党きづな」、民主党離党議員を含め国会議員5人となり初の支給対象となった「新党大地・真民主」も新たに助成金の届け出を行ないました。
- ④ 使途について制限がない。
  - ※ その使い道は、タクシー代、高級料亭などでの飲食、党大会の会場費、自動車税の支払い、選挙時のテレビCM放映料などにも及んでいます。
- ⑤ 税金依存体質につながる。
  - ※ 政党交付金に依存する体質ができると政党は世論より税金の動きを気にするようになり、自ら政策の理解を訴え、支援を呼びかけたりする事をやめてしまいます。